



中小学校から巴波川へ

ほたる飛び交う中地区をめざす運動の会 会長 森田 弘

「巴波川にほたるを甦らせよう」という夢をかなえるため、平成13年に「ほたる飛び交う中地区を目指す運動の会」が発足しました。「3年間で中小学校のビオトープにほたるを飛ばす」の目標を掲げ、ビオトープ作りが始まりました。学校・PTA・自治会・市役所経済部・教育委員会・ボランティアの方々の多くの協力を得て、素晴らしいビオトープが完成しました。皆様の思いが通じたのか、翌年中小ビオトープでほたるが飛びました。

以後、毎年ほたるが飛び交い、中地区の皆様はもちろんのこと、小山市をはじめ多くの皆様に感動を与えることが出来ました。去年より夢を実現するため「中小学校から巴波川へ」のスローガンのもと、ほたる橋にカワニナを放流しました。ことしは、カワニナの放流のほかに、自治会のご協力を得て中地区の活動の一環として巴波川の清掃をしたいと思っています。この活動を通して、ほたるの環境整備をすると同時に、巴波川沿いの地域全域に「自然の大切さ」を訴え、巴波川の清流を取り戻していきたいと思っております。

皆様の更なるご協力をお願いします。

昔のようにほたる飛べ飛べ

下野新聞5月17日号発行の「記者リポート」では「巴波川をほたるの名所に」と題して、本会の運動により中小学校と地域の環境意識が高まり、巴波川の清掃が計画されていることが報道されました。2001年にほたるの飼育が有志の会員により始められてから、今はビオトープでの飼育から巴波川を中心とした自然回帰へと会員の視野は広がりつつあります。

皆様のご支援により巴波川にほたるが飛び交う姿を見るのが本会の夢です。

カワニナ 巴波川へ放流!

～巴波川にほたるを甦らせよう～

ほたるが生息する環境づくりの第一歩として、11月5日にカワニナを巴波川に放流しました。

ほたるは、幼虫時代に食べたカワニナの栄養分だけで生き続けます。カワニナを放流し、増やすことは、ほたるの為の環境づくりの一つです。ほたるが住める場所を人の手で戻すことで、ほたるが巴波川に戻ってきてくれる事でしょう。

子供達・地域の人
みんなの願いを込めて

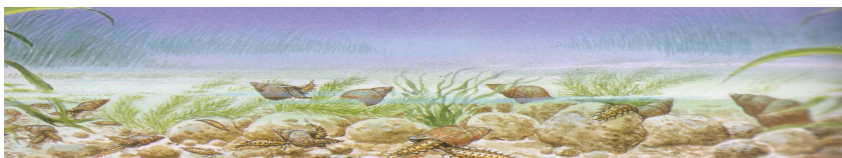


カワニナの放流

6年

カワニナを巴波川に放流しました。どうして巴波川にほたるが飛ばないのかと思い、クラスみんなで水質検査をすると、巴波川もほたるが飛んでいる栗野の川とあまりかわりがないことが分かりました。

そこで、巴波川にもほたるが住めるのではないかと思いますカワニナを放流しました。ほたるが飛ぶといいです。



ほたるを飼育してみた

6年

私は家でほたるを飼育することにしました。「ほたる飼育は温度調節がかんじんです。」と言われた時、できるかどうか心配でした。

残念ながら1匹だけ死んでしまいましたが、他の4匹は生きて放流することが出来て本当によかったです。

自分の家で飼ったほたるが育ち、6月の「ほたるを観る会」で元気よく飛んでくれるといいなと思います。ほたるを飼育して、何かに熱中することは良いことだと思います。

PTAの方も家庭で飼育

飼育する前は心配でしたが冬場だけだったので水温に気を遣うこともなく、何とか無事育てることが出来てほっとしています。

「自分の育てた幼虫がやがて成虫になって飛んでいるかも？」と思うとうれしくなります。

PTA 青木 環

初めての飼育でしたが、水温調節の必要もなく、世話として餌のカワニナを与え、水が汚れたら取り替えるくらいのことだったので、放流の日まで何とか飼育することが出来ました。皆さんもチャレンジしてみませんか。

PTA 池羽 径世

ほたる飛べ飛べ

6年

ほたるの幼虫を飼育してみたとても大変でした。しかし、月日がたつにつれ大きくなるほたるの幼虫を見ると、成虫になって飛んでいるほたるを見たくくなりました。

ビオトープに放流したほたるが6月に飛んでくれるととてもうれしいです。



ビオトープ充実 - 3月28日 東側の拡張工事実施 -

2001年、本会が発足してから役員さん並びに学校の先生方・PTAの方々の手で年々ビオトープが充実されています。

今回は、以下の理由により東側の拡張工事を実施しました。

- 1 網が二重になっているところへほたるが挟まり身動きできない。
- 2 支柱を太くして屋根に足場を作り作業しやすくする。
- 3 ほたる飛び交う様子を東からでも観賞できるスペースをつくる。

午前9時早速作業開始、既存の網を取り外し古い支柱を引き抜きます。一方すぐ脇のシュロの木を油圧ショベルで掘り起こし移植します。その後、「コの字」形に支柱を立てる穴を掘ります。太い鉄パイプを十数か所埋め込みます。屋根枠・足場をパッカーでしっかりと結び付けます。

午後は網張り作業です。「レベル」で水平を取り枠板を留め付けます。そこへスプリングで固定し網を張ります。下回りは土盛りと石を積み上げて予定の作業が終わりました。

春とはいえ真冬並みの寒風吹く中、一日中作業していただく方々に頭の下がる思いです。

「ほたる飛び交う中地区をめざす運動の会」は皆様の熱意とさまざまな工夫によって進められています。



— 「ほたるを観る会」を待つビオトープ —



ほたる一口メモ

松本 旭巧

◇ほたる前線

さくらの開花状況を示す桜前線と同じようにゲンジボタルも前線を持ちます。あたたかい九州より青森までです。

(北海道では自然のゲンジボタルは生息していません。)

◇ほたるの発光タイプ

ゲンジボタルの発光の長さは生息地域により異なります。

東日本で4秒、西日本では2秒です。なぜそうなったかはまだ解明されていませんが、安易に持ち運びするのは長い年月をかけた生態系にとって危険です。



ほたるを観る会

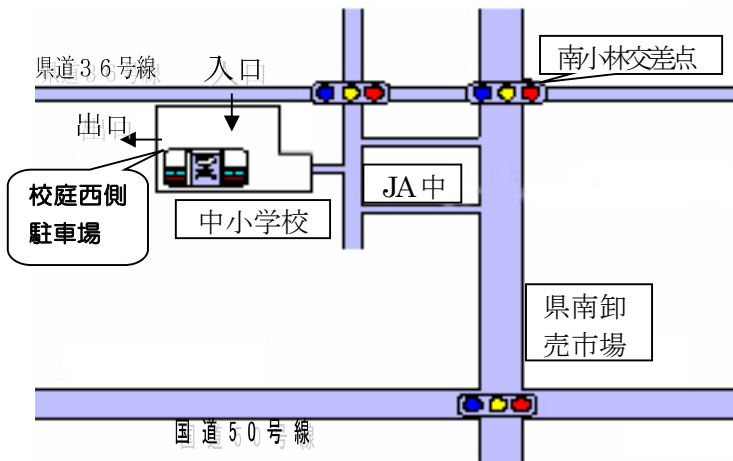
☆ 6月9日(金)

- 式典 …… 14:00 ~ 15:00
- イベント …… 18:00 ~ 19:30
- 観る会 …… 19:40 ~ 21:00

☆ 6月10日(土)・11日(日)

観る会 …… 19:30 ~ 21:00

ご家族でお誘い合わせて見に来てください。



駐車場は校庭のみとなっています。

校庭駐車される方々へ

入口 (北側県道から)

- ・「観る会」のため午後7時~9時の間はなるべく車の出入りはしないようご協力ください。
- ・車は、西向きにして駐車する。

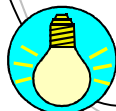
【ほたるは、明るさを嫌います。】

出口 (西側から)

夜店…美田商工会・前PTA役員様ご協力により

<焼きそば・ポテトフライ・アイスクリーム・ポップコーン>

お楽しみに!



『ほたる飛び交う中地区をめざす運動の会』本部役員

会長	森田 弘	元中小PTA会長
副会長	松沼 義重	自治会連絡協議会長
//	青木 幸子	中小学校長
//	岸 康孝	中公民館長
//	栃木 久雄	中小PTA会長
//	松本 旭巧	創生期の指導者
//	小川 明	創生期の自治会長
理事	熊倉 忠雄	儀式、イベント班
//	新井 幸男	ほたる飼育班
//	田波 耕太郎	広報活動班
//	大出 清成	教育指導班
//	小暮 米作	施設班
//	古口 昌稔	施設班
//	小林 剛久	自治会連絡協議会代表
//	大出 栄	//
//	神山 芳典	元自治会連絡協議会代表
//	熊倉 弘博	//
//	安良岡 博	//
//	小川 平八	//
//	増田 博利	//
//	松本 和己	前PTA会長
//	小林 まき	中小PTA本部役員
//	五月女 ナナ	//
//	大塚 幸一	元中小学校教頭
//	町田 繁	前中小学校教頭
//	山道 玲子	前中小学校教務主任
顧問	森田 総一	小山市市議会議員
//	大出 八マ	//
//	羽金 勝子	元中小学校長
//	大熊 久子	前中小学校長
会計	佐藤 茂男	中小学校教頭
庶務	青木 誠	中小学校教務主任
委員	自治会関係、各種団体関係 PTA(平成13年度以後)、ボランティア関係	

編集後記

「うずまのほたる」発行は7回目を迎えることになりました。今回より『ほたる一口メモ』のコーナーも登場し、広報紙も益々パワーアップしました。

<広報班>

- 田波 耕太郎 田中 佐一 神山 芳典 山道 玲子 小林 まき
- 福田 昭枝 小川 智子 木村 優子 浮田 雅子 増田 真弓
- 青木 誠